

【資料1】

京都手話通訳問題研究会

40周年連続講座



障害のある人もない人も
誰もが安心して暮らし続けられるまちへ

明石市長

いずみ
泉

ふさほ
房穂

はじめまして！



明石市長 泉 房穂(いずみ ふさほ)

- 1963年 明石市生まれ
- 弁護士
- 社会福祉士
- 元衆議院議員
- 元NHKディレクター
- 2011年より明石市長（現在2期目）
- 柔道3段、手話検定2級、明石タコ検定初代達人

今日のタイムスケジュール



10:05	～	10:35	「明石市の取り組み」
10:35	～	10:50	質疑応答
10:50	～	11:00	休憩
11:00	～	11:30	「共生のまちづくり」
11:30	～	11:50	質疑応答

誰もが暮らしやすいまちの実現に向けた4つのSTEP



誰もが
暮らしやすいまちへ

ステップ° 4 合理的配慮への公的助成

ステップ° 3 障害者差別解消条例の制定

ステップ° 2 多様なコミュニケーションの促進

ステップ° 1 手話言語の確立



明石市手話言語・障害者コミュニケーション条例

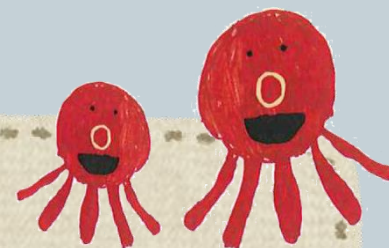
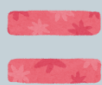
手話言語
条例



情報
コミュニケーション
条例

明石市の

手話言語・障害者
コミュニケーション条例



手話言語・障害者コミュニケーション条例の内容

- ・誰もが住みやすいまちづくりを目指す取り組みのひとつ
- ・手話を言語として認め、障害のある人のコミュニケーションを促進する条例ができました



手話言語・障害者コミュニケーション条例の内容

1

手話を言語として認める

手話言語

- 手話が独自の言語であることを認めます。
- その上で、手話と手話への理解を広めていきます。



手話言語・障害者コミュニケーション条例の内容

2

いろいろな コミュニケーションの支援

情報
コミュニケーション

- コミュニケーション手段を
 選べるようにしていきます。
 （手話や要約筆記、点字、音訳など）
- 手話通訳者・要約筆記者・点訳者・
 音訳者などを育てて増やしていきます。



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

市内すべての小学校で手話教室を開催

- 平成29年度までの3年間で、市内全市立小学校（28校）で、手話体験教室を実施します。
- 初年度は10校で実施しました。
- 今年度は約15校で実施する予定です。
- ろう者と手話通訳者がペアで講師をします。
- 手話表現だけでなく、ろう者のことを理解してもらえるように工夫します。



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

手話検定などを活用した職員手話研修の実施

- 約20年前から職員向けの手話研修を実施しています。
- 希望する職員に手話検定の受講料を助成する制度を新しく作りました。
- 「職員のためのやさしく学べる手話動画」を作成しました。
- 職員の手話サークルもあります。
明石ろうあ協会にご協力いただいています。

27年度は
41名が受験!



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

手話通訳士の資格を持った正規職員の採用

- コミュニケーション支援の推進などを充実させるために、手話通訳士を任期付正規職員として2名採用しました。
- 職員研修や小学校での手話教室などで講師をします。
- 支援者の立場から、障害のある人が必要としていることを市の施策に盛り込んでいきます。



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

市後援行事での手話通訳者・要約筆記者配置費用の助成

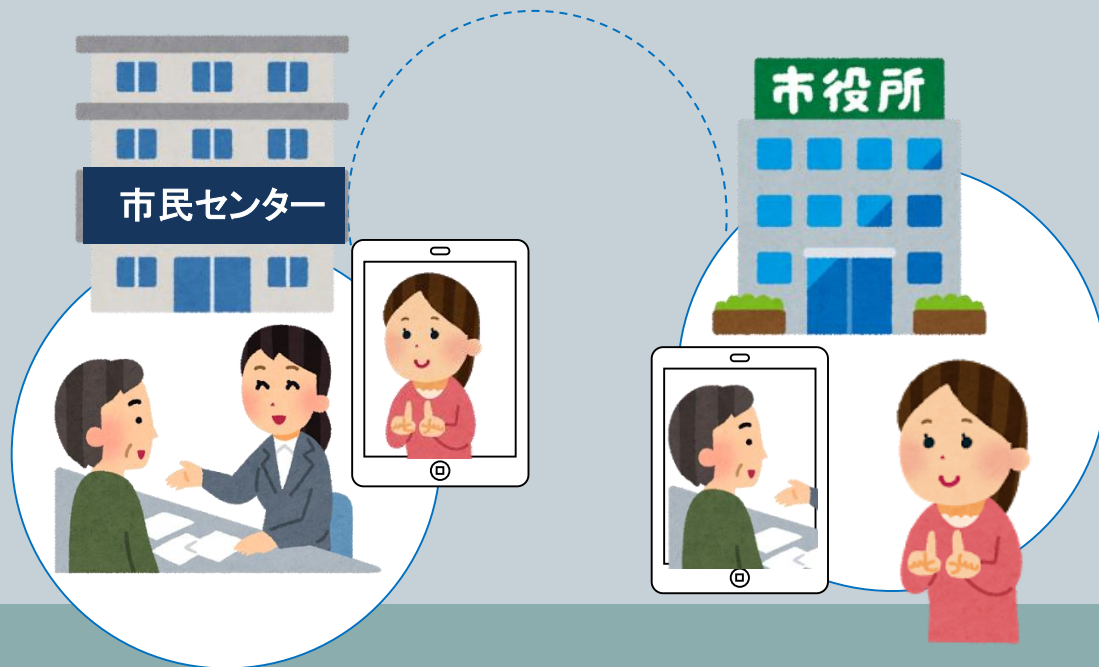
- 市民フォーラムや講演会など、市主催の行事に手話通訳者・要約筆記者を配置します。
- 市が後援する行事にも、情報保障に必要な費用の半額を助成します。
- 手話通訳者・要約筆記者の報酬金額の見直しを行いました。
- 手話通訳者・要約筆記者を育てて増やしていくことにも力を入れて取り組んでいきます。



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

タブレット端末を使った遠隔手話通訳サービス

- 市役所を総合福祉センター、市民センター、観光案内所とタブレットのテレビ電話でつなぎました。

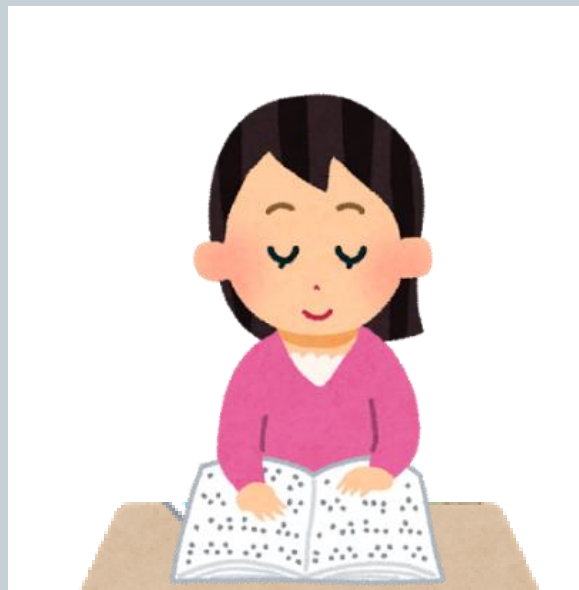


- 手話通訳者がいないところでも手話通訳が利用できるようになりました。

明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

点字による市役所の情報発信

- 市役所から送る書類の内容、
締め切りがあるかどうかなど、
特に伝えたい内容を選んで点字の
送り状を同封します。
- マイナンバーの通知カードも、
希望があれば点字シールで
対応しました。



明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

いろいろな表現による情報の提供

- 明石市の条例について意見を募集するときは、説明書類にルビをふったものを用意しました。
- 点字や音声による案内も用意します。
- 平成27年4月に差別事例を募集したときは、わかりやすい表現による説明文を用意しました。

わかりやすい表現の例

- | | | |
|--------------------|---|---------------------|
| ● 必要事項を
ご記入ください | → | ● 必要なことを
書いてください |
| ● 留意事項 | → | ● 気をつけること |
| ● 配慮 | → | ● 人への気くばり |

明石市が取り組んでいるコミュニケーション支援

施策推進協議会の開催

- 明石市手話言語等コミュニケーション施策推進協議会を開きます。
- 障害のある人や支援する人からも広く意見をきいて、市役所が取り組むことを決めていきます。
- 障害のある人への差別をなくす取り組みについても話し合っ、コミュニケーションについての支援方法を決めていきます。



明石市は障害のある人とともに取り組みます

聴覚に障害のあるろう者が市議会議員に当選

- 平成27年4月に明石市議会議員選挙においてろう者が当選されました。
 - 市議会では、議場に手話通訳者を配置して、ろう者の議員とともに議会を運営していく上で必要な情報・コミュニケーション保障を行っています。
 - 市でも予算措置を行い、必要な環境整備を行っていきます。



「明石市障害者配慮条例」



障害者に対する配慮を促進し誰もが
安心して暮らせる共生のまちづくり条例



平成28年4月1日スタートしました



「明石市障害者配慮条例」



- 明石市は、障害のある人もない人も安心して暮らせる街づくりをめざして条例を制定しました。
- 目が見えない、耳が聞こえない、移動するのが難しいなど人によって何に困っているかは違います。
- 身近なところで、少しの配慮があればもっと暮らしやすい街になります。
- みんなが笑顔になれるよう、市も地域の人と一緒に、安心できる街づくりを進めていきます。



明石市の障害者配慮条例の特徴



①障害のある人が暮らしやすくなるため、
いろいろな配慮をすることを応援します！

- みんなが困らないような配慮をする「合理的配慮」について、お店や団体が負担する費用の一部を市が助成します。
- 耳が聞こえない人と話せるように筆談ボードを置く
- 車椅子の人も移動しやすいようにスロープや手すりをつける
- 目が見えない人も注文しやすいようにお店に点字メニューを置く

明石市の障害者配慮条例の特徴

②障害のある人の暮らしや、障害のことについて
理解を深められるようにします！

- 障害のある人は、人によって、体や生活の様子も不便だと感じていることも違います。
- 地域で障害のある人もない人も一緒に交流し、お互いの様子や意見を知ったり、学んだりする機会を増やしていきます。



明石市の障害者配慮条例の特徴

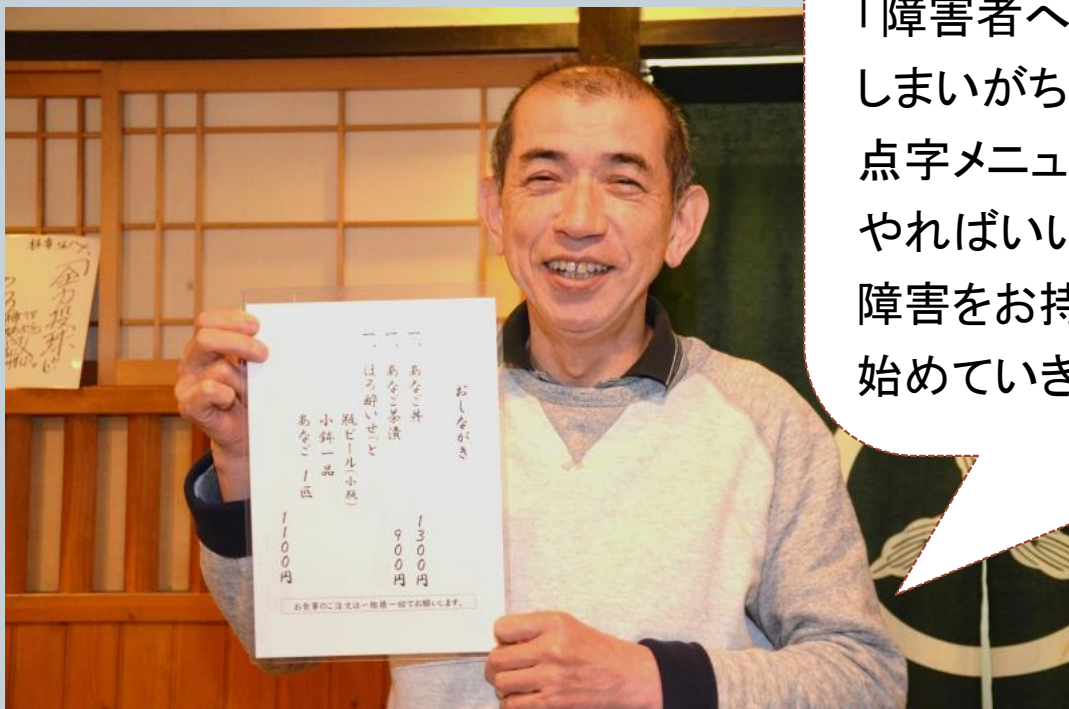


③障害のある人の差別をなくす取り組みを 地域全体で進めます！

- 障害があることで差別を受けたときは、相談できる窓口を設置し助言や調整を行います。
- 市だけでなく、地域として差別をなくす取り組みについて話し合い、課題を解決できるように「明石市障害者の差別の解消を支援する地域づくり協議会」を設置します。

明石のまちが変わります

去年参加した条例検討会で、視覚障害のある人の声を直接聞くことができました。「障害者への配慮」と聞くと難しいことと考えてしまいがちですが、例えば点字が読める人に点字メニューを用意するなど、できることをやればいいと気づきました。これからは、他の障害をお持ちの方に対しても、できる配慮から始めていきたいと思います。



株式会社 林喜商店 代表取締役社長 林 祝雄さん
(筆談ボードと点字メニューを導入)

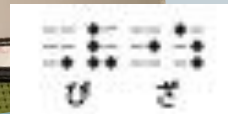
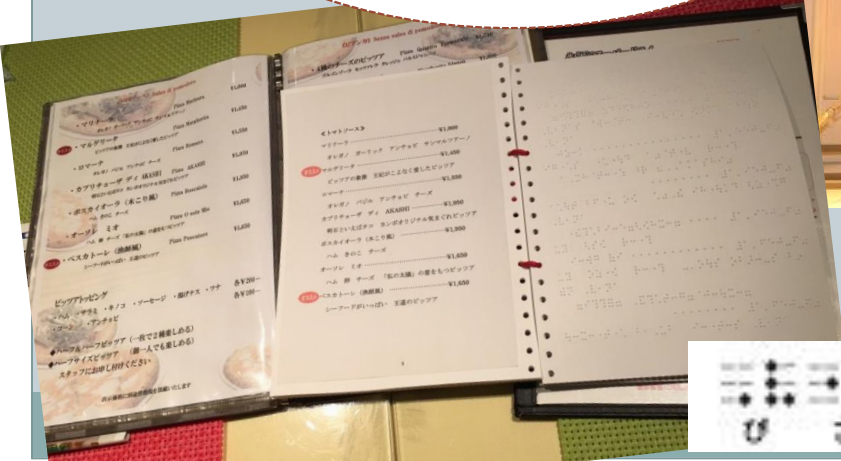


明石のまちが変わります

イタリアンレストランで、
点字メニューと筆談ボードを
導入しました。こういう取り組みが
増え、認知されていけばよいと
考えています。“食”を通して
人にやさしいまちになるよう、
飲食関係の輪を広げていきたい
ですね。



株式会社 キャッスルホテル料飲事業部 部長
東野 篤也さんとスタッフのみなさん
(筆談ボードと点字メニューを導入)



明石のまちが変わります



●● ●● ●●
●● ●● ●●
●● ●● ●●
けーき

くろみや本店

入口に折りたたみ式スロープを設置して
車イスもベビーカーも入りやすくなりました。

(筆談ボード・点字メニュー・
折りたたみ式スロープを導入)



明石のまちが変わります



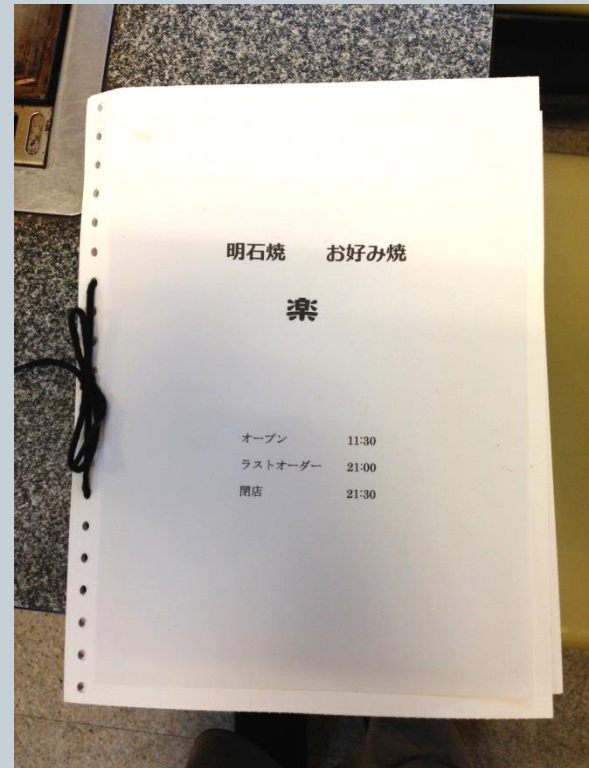
以前から店には中国語や英語などの外国語メニューを置いていました。このたび、店に点字メニューの導入をすすめています。障害のある人もない人もおいしい物を同じように食べられるのは当たり前のことだと思います。



都きしめん

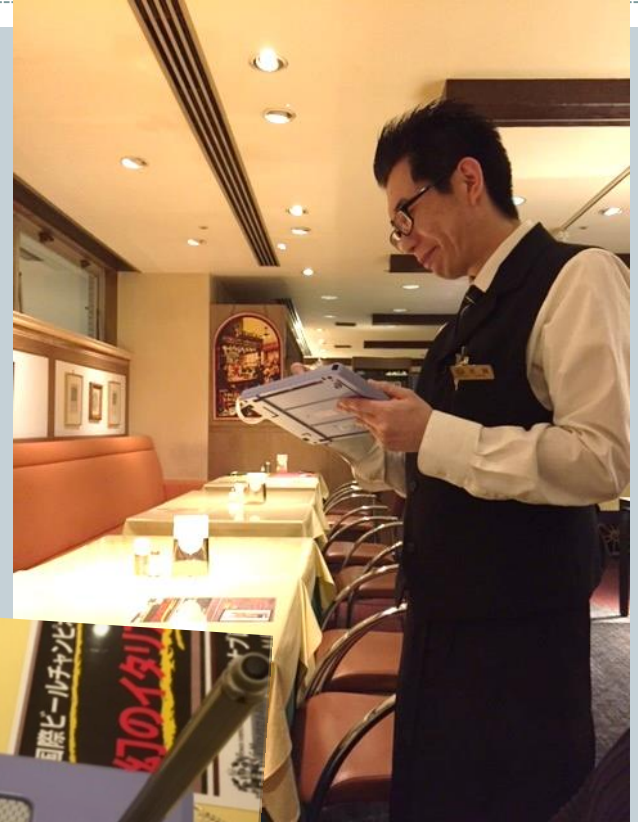
明石飲食業組合 組合長 宮内 正次さん
(筆談ボードと点字メニューを導入)

明石のまちが変わります

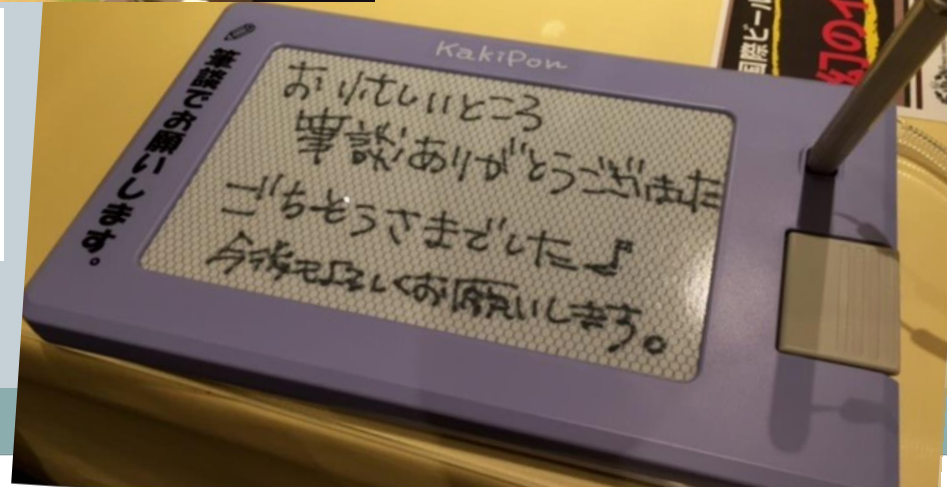


お好み焼き屋で点字メニューを読む
視覚障害者

明石のまちが変わります



イタリアンレストランで
筆談ボードを利用して
料理の説明を受ける
聴覚障害者



明石市は本気です



明石市は
障害のある人もない人も
誰もが暮らしやすい社会をめざして
まちの風景を変えていきます
まちの「あたりまえ」を変えていきます

